

まちの話題

大きな紙に大きな夢を「でっかい夢の書き初め会」

巨大な紙に新年の抱負などを書く「でっかい夢の書き初め会」が1月10日、おおやホールで行われました。

この書き初め会は、同ホールが地域文化の向上などを目的に毎年開催しているもので、今年は地元住民ら40人が参加しました。

参加者らは、「努力」「生きる力」など思い思いの言葉を大きく伸びやかに書いて楽しみました。

この日、最初に八鹿高校書道部の生徒が大きな紙に「卯」の字と、干支のうさぎが登場する童謡「ふるさと」の歌詞を曲に合わせて書くパフォーマンスを披露。その後、2011年に合わせて用意され

五穀豊穡・無病息災を願う「別宮のお綱うち」

1月9日、古くから別宮地区に伝わる伝統行事の「別宮のお綱うち」が行われました。

同日の朝、区の人たち約50人が作業場に集まり、大きな掛け声とともに3本の太いわらを数メートルごとに体をねじりながら回り、太さ約30センチ、長さ約18メートルという巨大な綱を編み上げました。

その後、神事が行われ、綱は、お綱屋敷と呼ばれるところまで運ばれました。上組と下組に分かれて7回綱を引き合い、上組が勝つとその年は豊作と言われているとされています。「よいしょ」の威勢の良い掛け声が村中に響き渡り、4対3で見事上組の勝利となりました。

綱引きの後は、お綱をカンザキ岡まで運び、巨大なケヤキの木に飾り付け、ケヤキの前で「ウオー」と声をあげ1年の無病息災と豊作を祈願しました。



息を合わせて綱を打つ別宮区の住民

た長さ2011センチ、幅2メートルの紙を中心に、大屋町在住の書道家前田華汀さんが「卯年大吉」、近藤研秀さんが「絆」と書き、参加者たちも好きな言葉や目標などを書きました。

参加者は「紙が大きくてバランスがとれなかったけど楽しく書きました」と話していました。



大きな紙に思い思いの言葉などを書く参加者

鬼の木箱に息災を願う「まいそう祭り」

燃えさかるたいまつを、鬼が持つ木箱にたたきつけて、無病息災を祈願する「まいそう祭り」が、1月14日の夜、大屋町宮本の御井神社で奉納されました。

この祭りは、宮本がまだ海の底だったころ、神様の乗った船のうち1艘が見当たらなくなったのを、村の人たちがたいまつを火をかざして「もう1艘ない」と探したのが起源とされ、この呼びかけが転じ「まいそう」となったといわれています。

神事後、氏子らは御神火が移されたたいまつを受け取り、「まーいそーなーい」というやし声を上げながら境内に輪をつくりました。そこへ木箱を持った鬼が登場し、輪の内側を歩く鬼の木箱に氏子らは歓声を上げながら次々とたいまつをぶつけ、1年の無病息災を祈願しました。



鬼が持つ木箱にたいまつをぶつける氏子